



# 3. ESDとは

## ESDの概要及び経緯

ESDとは、「持続可能な開発のための教育」(Education for Sustainable Development) の略称で、「地球環境、貧困、人権、平和、食料などの社会課題に対して、一人ひとりが世界の人々や環境との関わりの中で生きていくことに気づき、行動を変えていくための教育」を意味します。

2002年9月のヨハネスブルグ・サミットにおいて、日本政府が「ESDの10年」を提唱し、同年12月の国連総会にて、2005年から2014年までの10年間で「国連持続可能な開発のための教育の10年」(UNDESD: United Nations Decade of Education for Sustainable Development、以下「国連ESDの10年」と略す)とする決議案が満場一致で採択されました。以来、ESDは国際的な取り組みとして各国で進められ、「国連ESDの10年」は2014年に最終年を迎えます。

### 「国連ESDの10年」に係る主な経緯

2002年 9月	ヨハネスブルグ・サミットで日本政府が「国連ESDの10年」を提案
2002年12月	国連総会で「国連ESDの10年」が満場一致で決議
2005年 1月	「国連ESDの10年」開始(同年3月、愛知万博の開催)
2005年12月	「国連ESDの10年」関係省庁連絡会議設置 「国連ESDの10年」施策の実施について、関係行政機関相互間の緊密な連携を図り、総合的かつ効果的な推進を図るための会議
2006年 3月	「国連ESDの10年」国内実施計画の決定(日本政府)
2008年 1月	「国連ESDの10年」円卓会議設置 行政・NPO・教育機関・企業等の有識者により、「国連ESDの10年」国内実施計画をふまえた取り組みや、「国連ESDの10年」の評価に資する意見交換を実施
2009年 3月	ESD世界会議(ドイツ・ボン) 中間年として実施状況の共有、今後の強化策の検討。2014年に日本での国際会議開催を決定
2011年 6月	「国連ESDの10年」国内実施計画の改訂
2012年 6月	国連持続可能な開発会議(リオ+20) 成果文書において、ESDを促進すること、2014年以降も持続可能な開発を教育に統合していくことを決意
2014年11月	「国連ESDの10年」最終年、ESDユネスコ世界会議の開催(愛知・名古屋)

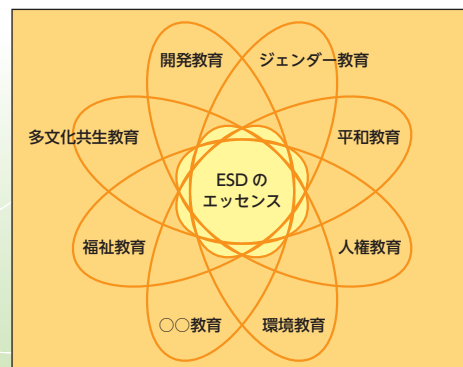
## ESDユネスコ世界会議(持続可能な開発のための教育に関するユネスコ世界会議)

2014年11月には、名古屋市の名古屋国際会議場で「ESDユネスコ世界会議」が開催され、「国連ESDの10年」の活動を振り返るとともに、2014年以降の方策について議論されます。国内外の閣僚級が参加する全体会合では、10年間の活動成果の検証と課題の確認、ポスト2014のためのESDアジェンダの策定が行われます。2015年以降は、ESDに関する「グローバル・アクション・プログラム(GAP)※」をもとに、ESDのさらなる普及拡大が期待されています。

※GAPは、「国連ESDの10年」の後継プログラムとして位置づけられ、政策的支援、包括的取組、教育者の育成、若者参加の支援、地域コミュニティの参加促進を優先分野としている。

## ESDと環境教育の関係

従来の環境教育が、自然環境の保全を基盤としているのに対し、ESDは、環境・社会・文化・経済等のつながりを考慮しながら、持続可能な社会の構築を目指します。すなわちESDは、広義の環境教育を含む、様々な教育を網羅していると言えます。



出典：+ ESDプロジェクト  
(<https://www.p-esd.go.jp/topics.html>)